

「そない焦ら／＼して歸つたかて、若旦那は多分居やはらんかも知れまへんで」

「サ、そやさかい氣が急くのや」

「まあ急ぎなはんな。今頃は丁度龜吉とんが居眠て、若旦那を出して仕舞ひよつた時分やと思ふワ」

「そんな怪つ態な時分が有るかい」

「いーえ。私いが請合ふ。屹度若旦那居やはれへんわ」

「……………コレ定吉、貴様若旦那を出したナ」

「何云ふてなはんね。そんな事しまつかいな。私等滅多にそんな事しやしまへん。龜吉とんやつたら二十錢貰ろて出しよるか知らんけど……………」

「コラ貴様ア……………ア、左様か、イヤ／＼左様やろ。お前は中々賢い依てそんな事しやへんなア」

「左様だすとも、誰かて私い賢い云ふて呉れはります」

「ウム賢い／＼。龜吉と豪い違ひや。彼奴は頓とドム成らん……………左様や依て今頃は成る程二十錢貰ろて出して仕舞ふてよるやろ」

「夫れに定まつたアるわ。そや依てもう急かいでも宜ろしい。何處ぞへ往きまよ。」

「よし行こ／＼。併し若し龜吉が二十錢貰ろて出してよつたら、若旦那は何處へ往きやはると思ふ。

お前は賢い依て解るやろ……………旨い事云ひ當てたら、今晚は小田^{まき}卷^きや無い。茶碗蒸しと親子^{おやこ}井取つた

げるで……………何ふや考えて當て、見い……………」

「宜ろしおます、當てまつさかいなア、ほんまに取とくなはれや。若旦那の往きやはる先やつたらなア、屹度中筋の大梅云ふお茶屋だすワ、そこで藝妓はん仰山連れて、難波の一方亭云ふ處へ遊びに往きはつたに違ひおまへん。……………サア親子……………」

「待て／＼。俺しが往て見ん事にや、貴様の云ふた事が當つたか何ふや解らへん。」

「往て見んかて違ひおまへんに……………」

「いやそりや可かん。俺しや一寸往て見て來る、貴様は先へ歸つて、親旦那に番頭はんはチョツと一軒寄り道しやはりますと云ふとけ、他に餘計な事云ふのや無いぞ。」

「親子はいナ……………」

「見て來てからの事や」

「ほんまかいナ……………。何なら煙草入れ預かつときまよか。」

「阿呆云やがれ。サア早よ歸の」

「へ……………」

丁稚を歸しまして其足で難波の一方亭へ遣て参りました。ヅツと通らふと致しましたが、それも餘り宜う無いと思ふて、暫らく様子を伺ふて居ると、二階で賑やかな人聲が致します。